



上荒尾熊野座神社神楽保存会 会長

上田康行さん

うえだ・やすゆき 1971 (昭和 46) 年生まれの 46 歳。上小路区在住。サウナでのストレス発散が最近の楽しみ。モットーは「何事も全力で」。

「上荒尾熊野座神社神楽(通称・子ども神楽)との出会いは38年前。兄弟も舞っていたので、自然と始めていました。先輩たちのように剣を持って格好良く舞いたいと思っていました」と話す上田康行さん。上荒尾熊野座神社神楽保存会の会長を務めています。

子ども神楽は、毎年4月14・15日に行われる上荒尾熊野座神社の春季例大祭(ごんげんさん)で奉納されます。五穀豊穰・家内安全を祈願するこの神楽には、約160年の歴史があり、上小路区の子どもたちによって代々受け継がれてきました。2002年には市指定無形民俗文化財に指定され、ことは県文化財功労者の表彰も受けるなど、活躍の場を広げています。

師匠として舞の指導も行っている上田さん。子ども神楽の文化・伝統を伝えていくことはもちろんですが、「最初には神楽を舞うことの楽しさを知ってもらいたい」と話します。「私もそうでしたが、楽しければ練習にも自然と熱が入りま

すし、伝統を受け継ぐ意識も芽生えやすいと思います」。

昨年、上田さんは4月15日の神楽を中止しました。熊本地震の前震後ということもあり、安全を第一に考えての決断でしたが、「歴史上初めてのことで、長年続けてきた伝統の重みをあらためて肌で感じました」と振り返ります。同時に、ある思いが湧き上がって来ました。「県内には地震で甚大な被害を受けた地域があり、荒尾の子どもたちも怖い思いをしました。ことしからは震災復興への祈りも込めて奉納したいと思いました。子どもたちにこの思いを伝えると、『僕たちの舞が復興への助けになれば』と意気込み、真剣な表情で舞を奉納してくれました」。その姿に上田さんは心動かされたと言います。

「舞手不足などの不安はありますが、一生懸命舞う子どもたちの姿にいつも力をもらえます。いつか子どもたちが私からのバトンを受け、この伝統を引き継いでくれる日が来たらうれしいです」



1 復興への祈りも込めて舞った子どもたち。「保護者の皆さんの子ども神楽へのご理解、とても感謝しています」 2 公民館での練習風景。メリハリをつけた指導を心がけています 3 練習後にバーベキューをして楽しむことも 4 普段は救急救命士として働いている上田さん。「幼少の頃に負ったけがを助けてもらったことで、私も誰かの役に立ちたいと思いました」

